

## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月7日

上場会社名 アルフレッサホールディングス株式会社

上場取引所 東

コード番号 2784 URL <https://www.alfresa.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 荒川 隆治

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務企画部長 (氏名) 佐々木 卓 (TEL) 03-5219-5102

四半期報告書提出予定日 2023年2月14日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	2,047,935	4.2	20,000	6.7	21,992	2.3	14,822	△20.9
2022年3月期第3四半期	1,965,396	-	18,739	-	21,491	-	18,747	-

(注1) 包括利益 2023年3月期第3四半期 21,186百万円(240.1%) 2022年3月期第3四半期 6,229百万円(-%)

(注2) 2022年3月期第3四半期の増減率については、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等の適用による会計方針の変更に伴い記載しておりません。

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	73.24	-
2022年3月期第3四半期	88.78	-

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	1,438,692	481,880	33.5
2022年3月期	1,303,991	471,835	36.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 481,597百万円 2022年3月期 471,593百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	27.00	-	27.00	54.00
2023年3月期	-	28.00	-	-	-
2023年3月期(予想)	-	-	-	29.00	57.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,618,000	1.3	29,500	1.4	32,800	0.7	21,200	△34.1	104.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期3Q	202,840,000株	2022年3月期	235,017,600株
------------	--------------	----------	--------------

② 期末自己株式数

2023年3月期3Q	471,374株	2022年3月期	32,648,047株
------------	----------	----------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年3月期3Q	202,369,070株	2022年3月期3Q	211,182,001株
------------	--------------	------------	--------------

(注) 期末自己株式数および期中平均株式数の算定上控除する自己株式には、役員報酬BIP信託口が保有する当社株式を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

※ 2022年3月期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2022年3月期第3四半期の連結経営成績について、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書 .....	7
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(企業結合等関係) .....	9
(セグメント情報) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループでは、今年度新たに「22-24中期経営計画 未来への躍進 ～進化するヘルスケアコンソーシアム®～（以下「22-24中計」という。）」を策定し、グループ経営方針に掲げた「事業モデルの強化と新たな価値の創造」「グループ一体となった取り組みによる地域の健康・医療への貢献」「環境保全への取り組み等を通じたサステナブル社会への貢献」「ダイバーシティを中心とした人財戦略の推進」「コンプライアンスの遵守を最重要とする企業風土の醸成」に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の流行が長期化し、収束の見通しが立たない状況のなか、生命関連商品を取り扱う社会インフラとしての使命を果たすべく、感染再拡大防止の対策を行うとともに、お取引先様および当社グループ従業員の安全を確保しながら医薬品等の安定供給に努めております。

当社は2022年10月1日付の機構改革において流通品質統括部を新設いたしました。当社グループ全体のGDP<sup>\*1</sup>対応およびPMS<sup>\*2</sup>施策の統括機能を当社に設置することで、グループ一体となった医薬品流通の品質管理に関するさらなる取り組み強化を図ってまいります。

また、当社は、地域医療連携推進を目的とする株式会社ゲッカワークス(本社：東京都千代田区)を設立し、2022年11月、医師向け会員制Webサービス「ドクシル」の実証実験を開始いたしました。今後、ヘルスケアに携わる方々をつなぐ私たちの活動を新たなステージへ進め、地域医療連携に貢献してまいります。

さらに、連結子会社のアルフレッサ株式会社(本社：東京都千代田区)は、再生医療等製品の安定供給に貢献することを目的に、セルリソーシズ株式会社(本社：東京都千代田区)を設立いたしました。同社は、福島県郡山市に建設中の他家細胞の細胞培養加工施設を通じ、創薬を行う製薬企業等に対して高品質なマスターセルを安定的に供給することを目指すとともに、事業譲受した川崎市川崎区の細胞プロセッシングセンターにより自家細胞も取り扱うことで、自家細胞と他家細胞の両面から再生医療分野の製造機能の強化を図ってまいります。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高2兆479億35百万円(前年同期比4.2%増)、営業利益200億円(同6.7%増)、経常利益219億92百万円(同2.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益148億22百万円(同20.9%減)となりました。前年同四半期連結累計期間との比較・分析にあたっては、前第3四半期連結会計期間に医薬品等製造事業において行われた企業結合に係る暫定的な会計処理が前連結会計年度末において確定したため、暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を用いております。

※1 GDP(Good Distribution Practice)：医薬品の適正流通(GDP)ガイドライン(平成30年12月28日厚生労働省事務連絡発出)。品質管理や偽薬混入防止等、医薬品の適正流通を定めたガイドライン。

※2 PMS(Post Marketing Surveillance)：医薬品が販売された後に行われる、品質、有効性および安全性の確保を図るための調査。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

#### ① 医療用医薬品等卸売事業

医療用医薬品等卸売事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の流行が長期化するなか、医薬品の安定供給はもとより、新型コロナウイルスワクチンおよび治療薬の配送業務ならびに欠品や需給調整が続くジェネリック医薬品への対応に尽力しております。

また、スペシャリティ領域ならびにメディカル品へのリソース集中とDXによる事業変革を図るべく、「22-24中計」の重点施策として掲げた「既存事業の強化」「事業変革による収益化」「グループ全体での最適化・効率化・標準化」に取り組んでおります。

2022年11月、連結子会社の東北アルフレッサ株式会社(本社：福島県郡山市)は、仙台市若林区へ仙台本社を新設し、従来の本社との2本社制へ移行いたしました。東北地方最大の都市である仙台市に本社を設置することで、お得意様への一層のサービス向上や製薬企業をはじめとするお取引先様とのさらなる連携強化を図り、東北地方の地域医療へこれまで以上に貢献してまいります。

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、2022年4月に実施された薬価改定のマイナス影響があったものの、市場の伸長、独占禁止法違反による医療機関における入札指名停止期間の終了および診断薬等の「メディカル品」の需要拡大等の影響により増収となりました。また、売上総利益率維持に努めた結果、売上高1兆8,217億52百万円(前年同期比4.8%増)、営業利益169億29百万円(同7.1%増)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高131億37百万円(同4.6%増)を含んでおります。

#### ② セルフメディケーション卸売事業

セルフメディケーション卸売事業におきましては、既存領域の高収益化と成長領域への挑戦を推進し、「22-24中計」の重点施策として掲げた「高収益化への取り組み」「グループ連携強化」「事業変革による収益力強化」に取り組んでおります。

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、新型コロナウイルス感染予防関連商品の需要の落ち込みや競合他社との競争激化による減収の一方で、利益・コスト面の管理を徹底したこと等により、売上高1,867億79百万円(前年同期比1.2%減)、営業利益16億63百万円(同10.8%増)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高4億29百万円(同8.1%減)を含んでおります。

#### ③ 医薬品等製造事業

医薬品等製造事業におきましては、「次代の基盤創り」—企業価値の最大化—を目指し、「22-24中計」の重点施策として掲げた「安心・安全・誠実なモノづくり」「トータルサプライチェーンサービスの実現に向けた取り組み」「デジタルを活用した新たな取り組み」を推進しております。

2022年9月、連結子会社のアルフレッサ ファーマ株式会社(本社：大阪市中央区、以下「アルフレッサ ファーマ」という。)は同社子会社で連結子会社の青島耐絲克医材有限公司(本社：中華人民共和国山東省青島市)の分公司を中国上海市に開設いたしました。上海分公司を新たな活動拠点として、中国における取扱い製品の拡充を実現し同国での事業拡大を図ってまいります。

また、2022年12月、アルフレッサ ファーマとサンノバ株式会社(本社：群馬県太田市)は、アルフレッサ ファーマを存続会社とする2023年4月1日付の吸収合併契約を締結いたしました。両社が統合する新会社は、新たな価値の創造を通じて顧客満足を追求し、当社グループが掲げる「健康に関するあらゆる分野の商品・サービスを提供できるヘルスケアコンソーシアム<sup>®</sup>」の実現に貢献してまいります。

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、製造販売権を承継した長期収載品の売上伸長および新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)抗原迅速検査キット「アルソニック<sup>®</sup> COVID-19 Ag」の需要が拡大した一方で、受託製造における減収や減価償却費等の経費増により、売上高364億9百万円(前年同期比4.6%増)、営業利益9億92百万円(同29.8%減)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高105億68百万円(同16.4%増)を含んでおります。

#### ④ 医療関連事業

医療関連事業におきましては、予防からターミナルケアまでライフジャーニーにおけるすべてのステージに対応する「かかりつけ薬局」を目指し、「22-24中計」の重点施策として掲げた「在宅医療への取り組みによる事業の成長」「DXによる事業変革」「未病予防への取り組み」を推進しております。

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、薬価改定に伴う減収の一方で、連結子会社のアポクリート株式会社(本社：東京都豊島区)による同社子会社(非連結子会社)からの事業譲受に伴う増収等の影響により、売上高271億29百万円(前年同期比5.4%増)、営業利益43百万円(前年同期は営業損失3億4百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産の部

資産は、前連結会計年度末と比較して1,347億1百万円増加し、1兆4,386億92百万円となりました。

流動資産は、1,172億39百万円増加し、1兆1,337億11百万円となりました。これは主として、「受取手形及び売掛金」が732億52百万円、「商品及び製品」が241億20百万円、「現金及び預金」が124億15百万円および未収入金等の「その他」が59億13百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、174億61百万円増加し、3,049億81百万円となりました。これは主として、物流センター等の設備投資などに伴い有形固定資産が95億26百万円増加および保有株式の時価上昇等に伴い「投資有価証券」が90億76百万円増加したことによるものであります。

② 負債の部

負債は、前連結会計年度末と比較して1,246億55百万円増加し、9,568億12百万円となりました。

流動負債は、1,260億94百万円増加し、9,289億7百万円となりました。これは主として、「支払手形及び買掛金」が1,370億57百万円増加した一方で、「未払法人税等」が98億88百万円減少したことによるものであります。

固定負債は、14億38百万円減少し、279億4百万円となりました。これは主として、繰延税金負債等の「その他」が26億97百万円増加した一方で、「独占禁止法関連損失引当金」の流動負債への振り替えに伴い39億94百万円減少したことによるものであります。

③ 純資産の部

純資産は、前連結会計年度末と比較して100億45百万円増加し、4,818億80百万円となりました。これは主として、「利益剰余金」が36億83百万円増加および保有株式の時価上昇等に伴い「その他有価証券評価差額金」が65億93百万円増加したことによるものであります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	180,436	192,851
受取手形及び売掛金	602,488	675,740
商品及び製品	140,156	164,277
仕掛品	1,294	1,652
原材料及び貯蔵品	5,439	6,390
その他	88,908	94,821
貸倒引当金	△2,252	△2,023
流動資産合計	1,016,471	1,133,711
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	63,708	65,181
土地	70,018	72,174
その他（純額）	29,031	34,928
有形固定資産合計	162,758	172,285
無形固定資産		
のれん	2,913	2,668
その他	15,894	15,071
無形固定資産合計	18,807	17,739
投資その他の資産		
投資有価証券	87,284	96,361
その他	22,444	23,810
貸倒引当金	△3,774	△5,213
投資その他の資産合計	105,954	114,957
固定資産合計	287,520	304,981
資産合計	1,303,991	1,438,692

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	755,250	892,307
短期借入金	48	10
未払法人税等	10,922	1,033
賞与引当金	6,835	3,235
役員賞与引当金	407	287
株式給付引当金	44	-
役員株式給付引当金	59	-
独占禁止法関連損失引当金	-	4,988
その他	29,245	27,045
流動負債合計	802,813	928,907
固定負債		
株式給付引当金	-	54
役員株式給付引当金	-	66
独占禁止法関連損失引当金	3,994	-
退職給付に係る負債	8,075	7,812
その他	17,273	19,970
固定負債合計	29,343	27,904
負債合計	832,156	956,812
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	18,454	18,454
資本剰余金	101,660	57,720
利益剰余金	352,015	355,698
自己株式	△44,625	△686
株主資本合計	427,504	431,186
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	44,760	51,354
繰延ヘッジ損益	0	0
土地再評価差額金	△3,360	△3,360
為替換算調整勘定	200	347
退職給付に係る調整累計額	2,487	2,069
その他の包括利益累計額合計	44,088	50,410
非支配株主持分	241	283
純資産合計	471,835	481,880
負債純資産合計	1,303,991	1,438,692

## (2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	1,965,396	2,047,935
売上原価	1,829,332	1,906,213
売上総利益	136,063	141,722
販売費及び一般管理費	117,323	121,721
営業利益	18,739	20,000
営業外収益		
受取利息	43	38
受取配当金	1,710	1,179
不動産賃貸料	457	443
その他	863	627
営業外収益合計	3,075	2,288
営業外費用		
支払利息	56	49
不動産賃貸費用	136	136
その他	131	110
営業外費用合計	323	296
経常利益	21,491	21,992
特別利益		
固定資産売却益	46	106
投資有価証券売却益	7,054	2,686
特別利益合計	7,100	2,792
特別損失		
固定資産売却損	0	15
固定資産除却損	123	77
減損損失	16	1
投資有価証券評価損	658	933
独占禁止法関連損失引当金繰入額	-	993
その他	167	79
特別損失合計	966	2,102
税金等調整前四半期純利益	27,625	22,683
法人税、住民税及び事業税	8,214	7,088
法人税等調整額	653	731
法人税等合計	8,867	7,819
四半期純利益	18,757	14,863
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	18,747	14,822
非支配株主に帰属する四半期純利益	9	41

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△12,383	6,593
繰延ヘッジ損益	0	△0
為替換算調整勘定	81	146
退職給付に係る調整額	△225	△417
その他の包括利益合計	△12,527	6,322
四半期包括利益	6,229	21,186
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,220	21,144
非支配株主に係る四半期包括利益	9	41

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2022年6月21日開催の取締役会決議に基づき、2022年7月15日付で、自己株式43,940百万円(32,177千株)を消却いたしました。この結果、当第3四半期会計期間末において資本剰余金が57,720百万円、自己株式が686百万円となっております。

(企業結合等関係)

(比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し)

2021年12月1日に行われたアルフレッサ ファーマ株式会社(当社連結子会社)と第一三共株式会社の企業結合について、前第3四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されております。

なお、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益及び包括利益計算書に与える影響は軽微であります。

## (セグメント情報)

## 1. 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	医療用 医薬品等 卸売事業	セルフメ ディケーシ ョン卸売事業	医薬品等 製造事業	医療関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,725,366	188,535	25,746	25,747	1,965,396	—	1,965,396
セグメント間の 内部売上高又は振替高	12,558	467	9,077	—	22,103	△22,103	—
計	1,737,925	189,002	34,823	25,747	1,987,499	△22,103	1,965,396
セグメント利益又は損失(△)	15,804	1,501	1,413	△304	18,414	325	18,739

(注1) セグメント利益の調整額325百万円には、セグメント間取引消去160百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用164百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注2) セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

(注3) 企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額によっております。

## 2. 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	医療用 医薬品等 卸売事業	セルフメ ディケーシ ョン卸売事業	医薬品等 製造事業	医療関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,808,614	186,350	25,841	27,128	2,047,935	—	2,047,935
セグメント間の 内部売上高又は振替高	13,137	429	10,568	0	24,135	△24,135	—
計	1,821,752	186,779	36,409	27,129	2,072,071	△24,135	2,047,935
セグメント利益又は損失(△)	16,929	1,663	992	43	19,628	372	20,000

(注1) セグメント利益の調整額372百万円には、セグメント間取引消去107百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用265百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注2) セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。